４．分析のまとめ

4. 分析のまとめ

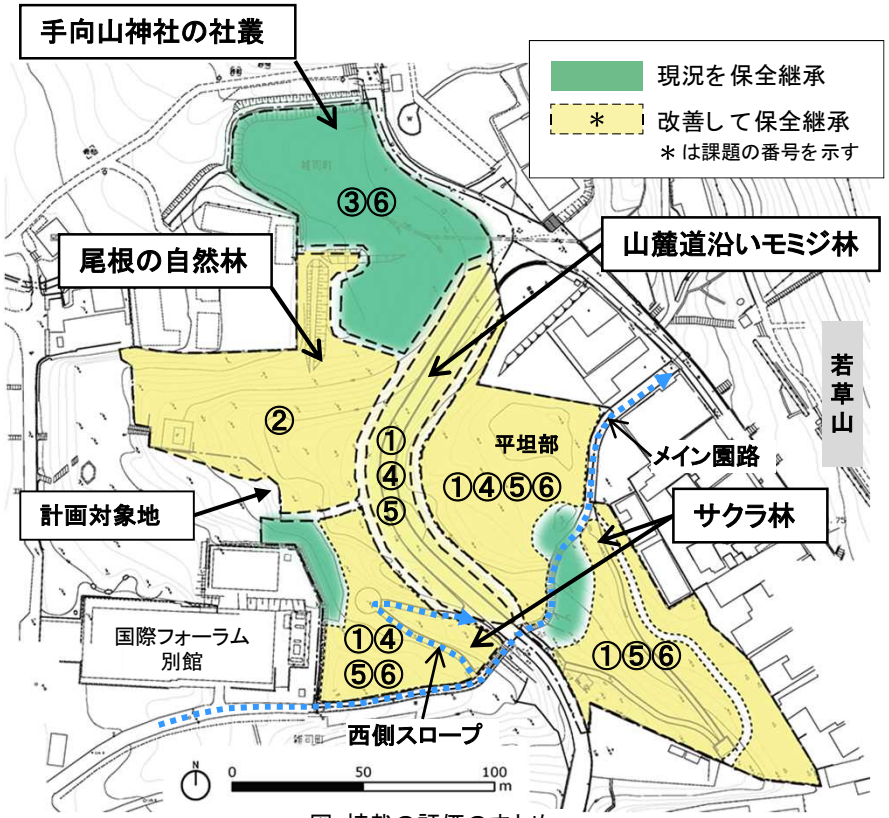
植栽の生育と景観の評価

これまでの分析・評価を踏まえ、植栽計画に向けて、立地条件及び景観資源とその課題をとりまとめる。

●立地及び景観資源

・計画対象地は、春日野園地から若草山麓に向かう動線であるが、遠足や少数の散策などに限られ、利用は多くない。

・県の花であるナラノヤエザクラが多く植えられていることや、若草山や生駒山系への眺望は、計画対象地の魅力といえる。



図：植栽の評価のまとめ

●生育の課題

①サクラ類の保全・更新

・サクラ林では、ナラノヤエザクラなどサクラ類の衰退樹木の更新が必要である。

・根頭がんしゅ病の対策や、排水性・日照等生育環境の改善が必要である。

②偏りのある構成樹種の修復

・尾根の自然林では、シカが採餌を好まない樹種に偏った構成樹種の変更が必要である。

・ナンキンハゼは生態系保全のため、駆除が必要である。

③社叢林にふさわしくない樹木の整理と後継樹木の育成

・手向山神社の社叢では、今後の状況に応じて、社叢林にふさわしくないイチョウ、イヌガシの整理が必要である。

・後継樹（スギ、イロハモミジなど）の育成が必要である。

●景観の課題

④サクラ林の景観の改善

・西側スロープや山麓道などからサクラに向けての景をイヌガシやアセビ等が阻害している。

・枯損、衰退しているサクラが多く、花見としては魅力が乏しい。

⑤若草山や生駒山系への眺望阻害

・サクラ林ゾーンの平坦部から、西方向の生駒山系への眺望が阻害されている。

・メイン園路から、目的地である若草山への眺望が阻害されている。

・民地との緩衝林であるカシ類の樹高や枝張が伸長し、メイン園路から若草山への眺望が阻害されている。また一部緩衝に抜けがある。

⑥斜面地の表土流亡

多くの斜面で、表土が流亡し、草地の景観が喪失している。

５．植栽計画

5. 植栽計画

(1)基本的な考え方

「サクラと眺望を楽しみつつ若草山に向かう場として、植栽・景観を保全・継承する。」

計画対象地の植栽・景観は、各ゾーンそれぞれに特徴があるが、奈良公園の中でも特に大きく生育したナラノヤエザクラ等が主体となったサクラ林と、若草山に向かう歩行者のメイン園路等から楽しむ景色や眺望は、奈良公園の魅力を高める主要な要素である。
本計画では、この魅力を活かした植栽･景観を保全･継承するため、次の２つの主要課題に取り組む。

主要課題１：サクラ林の景観演出

●サクラ林の景観の改善

西側スロープから見た北斜面をはじめ、様々なところで、生長した樹木によりサクラ林への見通しが阻害されているため、阻害樹木を伐採・剪定する。

●サクラ類の生育環境の改善

ナラノヤエザクラ等は、植栽後40～50年経過し、近年風倒、樹勢の衰退が多い。多数の根頭がんしゅ病の発生や、日照の阻害が見られるため、これらの改善により、健全な育成を図る必要がある。

●サクラ見本園と連続したサクラの景の演出

尾根の自然林ゾーンの裸地部にサクラ類を植栽し、春日野園地のサクラ見本園から、連続したサクラの景を演出する。

主要課題２：若草山や生駒山系等への眺望確保

●生駒山系等への眺望確保

花見ができるサクラ林ゾーンや山麓道から生駒山系への眺望は、生長した樹木に阻害されているため、阻害樹木を伐採・剪定する。

●若草山が見え隠れする眺望の保全

計画対象地のメイン園路は、若草山山麓に向かう主要動線であるが、生長した樹木に阻害され、若草山への眺望が阻害されているため、阻害樹木を伐採・剪定する。

阻害している樹木の中には、保全・継承すべき大径木も多く含まれることから、対策が比較的容易な地点を優先して対策を行い、見え隠れする若草山の眺望景観を保全する。

5. 植栽計画

(2)計画方針

計画方針：ナラノヤエザクラ等を中心としたサクラ林を活かし、サクラと眺望を楽しみつつ、若草山に向かう場所として、植栽・景観を保全・継承する。

・サクラを楽しむ場として、ナラノヤエザクラ等を中心とした植栽・景観を保全・継承する。

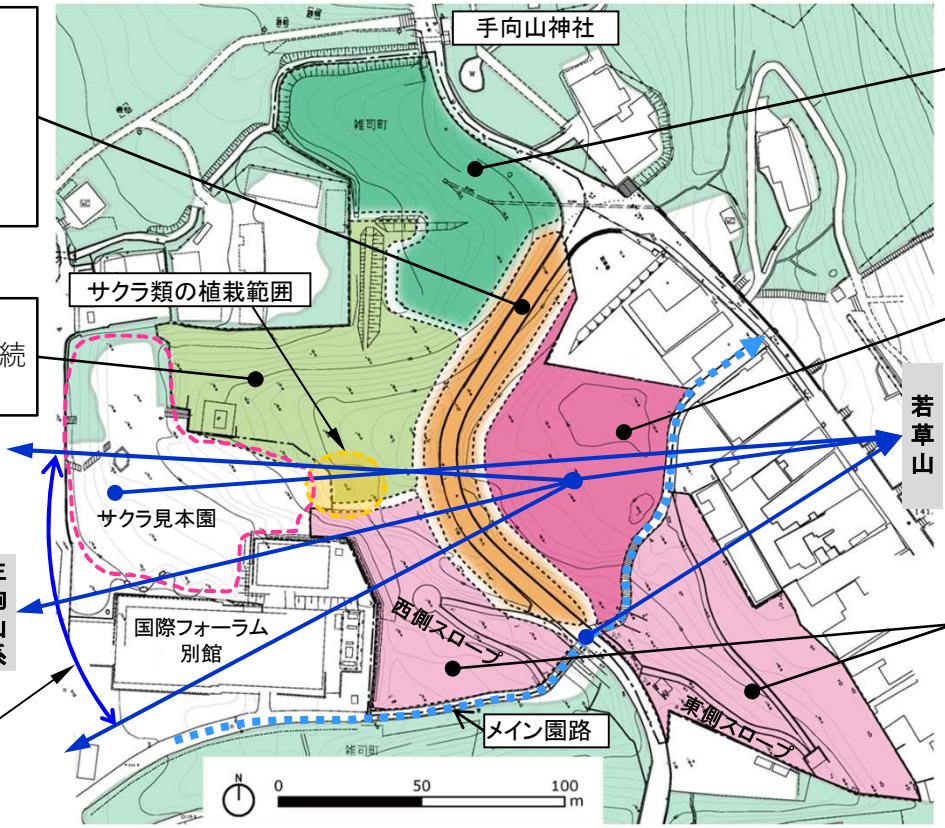
・若草山や生駒山系等への景観資源を活用する。

山麓道沿いモミジ林ゾーン

・イロハモミジが主体となった植栽・景観を保全・継承する。
・花見ができるサクラ林ゾーンから生駒山系への眺望に配慮する。
・花見ができるサクラ林ゾーンのサクラへの見通しを改善する。

尾根の自然林ゾーン

・ナンキンハゼを駆除する。
・春日野園地のサクラ見本園から連続したサクラの景とする。



花見ができるゾーンから、生駒山系への眺望確保のため、樹種、樹木密度、配植を配慮する範囲

図：計画方針図

手向山神社の社叢ゾーン

・手向山神社との調和に配慮し、社叢の樹林・景観を保全・継承する。

花見ができるサクラ林ゾーン

・サクラ類の生育環境を改善し、滞留に適した平坦部のサクラ林を保全・継承する。
・生駒山系への眺望を確保する。
・若草山への眺望を保全・継承する。

スロープ沿いサクラ林ゾーン

・サクラ類を保全・継承する。
・サクラ類の生育環境を改善する。
・大径木のモミやクスは原則として保全・継承する。
・若草山への眺望を改善する。
・西側スロープから斜面上部への見通しを改善する。
・民地沿い緩衝林は、若草山への眺望と民地への緩衝を両立する。

5. 植栽計画

(3)計画目標

尾根の自然林
・ナンキンハゼは、全て伐採し、イチイガシ、モミ、ケヤキ、エノキ等を補植する。
・明るく開けた場所には、サクラ類を植栽する。

山麓道沿い
・イロハモミジを保全・継承する。
・サクラ類の日照や見通しを阻害する樹木を伐採、剪定する。
・表土流亡を改善する。

平坦部のサクラ林
・サクラ類を保全・継承する。
・平坦部の排水性の保持に留意する。
・若草山への眺望を保全・継承する。
・生駒山系への眺望確保のため、阻害樹木を伐採、剪定する。

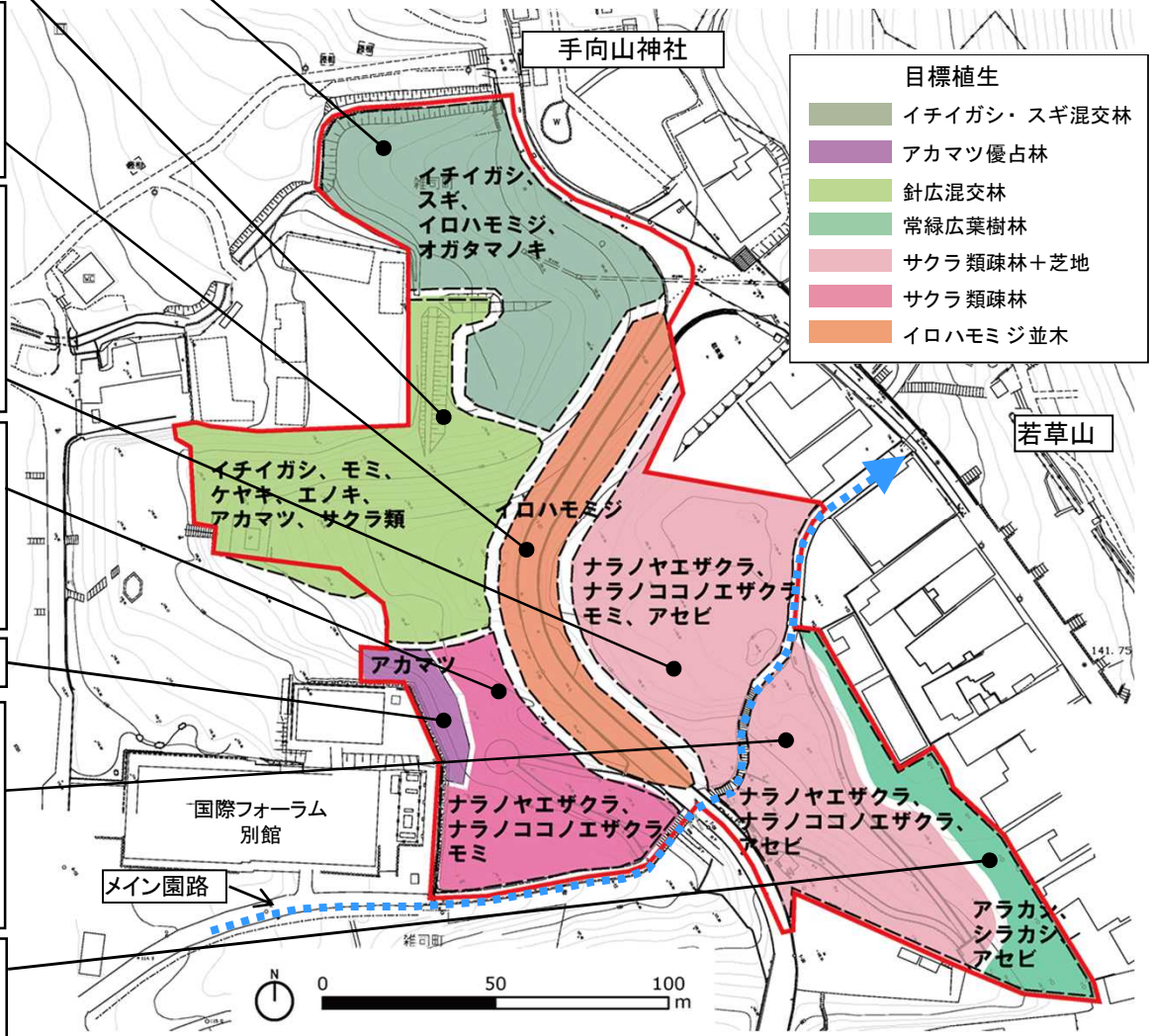
西側スロープのサクラ林
・サクラ類を保全・継承する。
・表土流亡を改善する。
・北斜面のサクラ類への視線の見通しを確保するため、阻害している樹木を伐採、剪定する。
・若草山への眺望を改善する。

柵内　・アカマツ等を保全・継承する。

東側スロープのサクラ林
・サクラ類を保全・継承する。
・表土流亡を改善する。
・大径木のモミやクスは原則保全・継承する。
・横断歩道付近から、若草山を部分的に視認できるよう、伐採、剪定する。

民地沿いの緩衝林
・生長した樹木の密度を下げ、民地の建物前にアセビ等を補植することで、民地への緩衝と、若草山の眺望を両立する。

手向山神社の社叢
・手向山神社に関わりのある樹種（スギ、イロハモミジ、オガタマノキ）を保全・継承し、後継種（スギ、イロハモミジなど）を補植する。
・社叢にふさわしくない樹種（イチョウ、イヌガシ）を伐採する。



注:図中の樹種は主要樹木を示す。

図:目標植生図

5. 植栽計画

(4)具体化に向けての検討

1)サクラ林の景観演出

①花見ができるサクラ林ゾーンの景観イメージ

花見ができるサクラ林ゾーンは、現在も東方向はランドマークである若草山への眺望が望めるが、西方向の生駒山系は眺望が阻害されている。西方向は多数の樹木が重なりあって阻害しているところが多いことから、具体化にあたっては、詳細調査を行い、部分的に視線が抜ける場所を検討する。

景観イメージ①:花見ができるサクラ林ゾーンから生駒山系の眺め

景観イメージ①:現況

②西側スロープから北斜面の景観イメージ

西側スロープから北斜面のサクラ林への見通しを確保するため、イヌガシやアセビなど、阻害している樹木を伐採・剪定する。

景観イメージ②:メイン園路から北方向の斜面のサクラ類の眺め

景観イメージ②の現況

5. 植栽計画

(4)具体化に向けての検討

1)サクラ林の景観演出

③サクラ見本園と連続したサクラの景のイメージ

尾根の裸地部は、春日野園地のサクラ見本園と連続したサクラの景を演出する。

景観イメージ③:サクラ見本園から若草山方向の眺め

景観イメージ③:現況

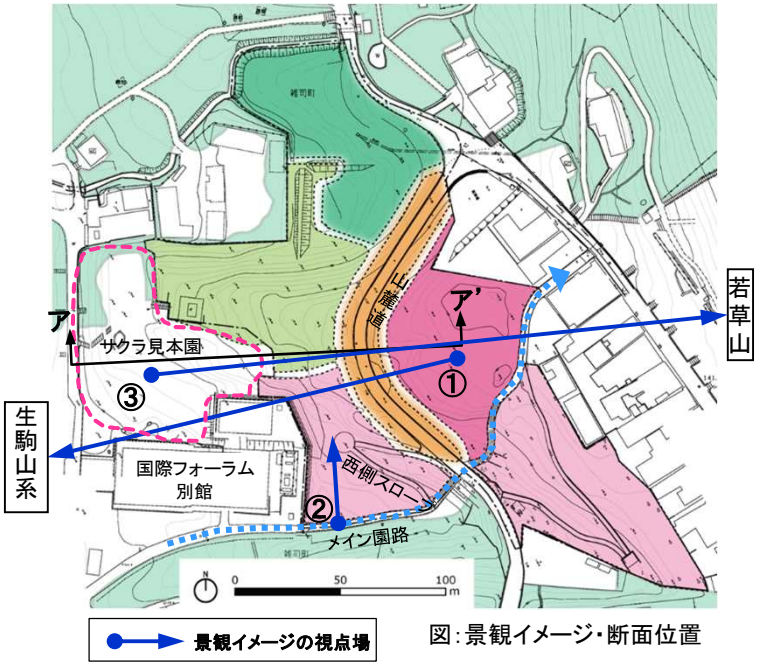
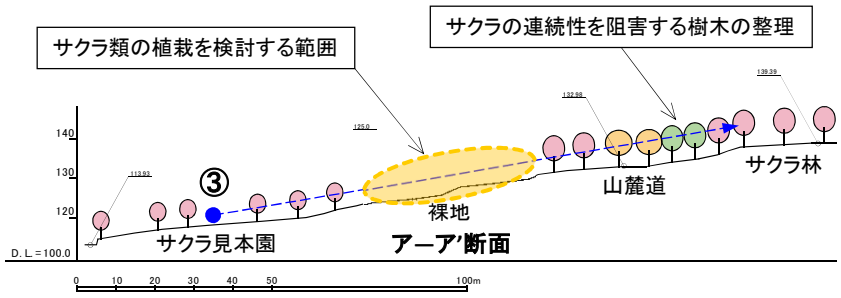


図:景観イメージ・断面位置

景観イメージ③の断面構造

サクラ見本園と山麓道の間の斜面が裸地化している。



5. 植栽計画

(4)具体化に向けての検討

2)ナラノヤエザクラの保全・更新

①ナラノヤエザクラに適した環境づくり

奈良公園内においてナラノヤエザクラの生育が良い場所に共通する点は、①排水良好（尾根部など）、②日照が極めて良い（他の樹木が少ない芝地）の2点である。これは、サクラ類に共通する環境条件であるが、ナラノヤエザクラにとって特に重要と考えられる。よって、この2点に重点をおいて、適切な植栽箇所の選択や土壌改良、競合樹木の剪定等を検討する。

②根頭がんしゅ病対策

根頭がんしゅ病は、古くから花木の病害として知られており、土中の原因菌が雨水によって伝播することで感染し、一度感染すると完治することが無いといわれている。

感染した木は、次第に生育が劣り枯死に至るだけではなく、新たな感染源となることから、サクラ類が多く集まる計画対象地においては、大きな問題である。

また、接木苗は、根頭がんしゅ病の大きな原因の１つとして、各地で問題となっている。

そうしたことから、根頭がんしゅ病の対応については、現地での防除だけではなく、様々な観点から慎重な検討が必要である。

③若木の生産

ナラノヤエザクラの若木は、公園事務所で生産されたものに限られるため、新植は生産量（10本／年程度）との調整が必要となる。よって、１年あたりの新植本数を抑制し、ある程度の期間をかけて、順次更新する。

また、根頭がんしゅ病予防のためには、健全な苗木生産を行う必要があることに加え、現在ナラノココノエザクラは生産をしていないため、苗木の生産方法を見直す必要がある。

④病虫害への備え

サクラ類の群植が多く、病虫害の被害が大きくなりやすいことから、積極的な防除が期待される。特に、サクラ類の新たな害虫として、特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」が報告されており、注意が必要である。

3)メイン園路から若草山への眺望確保

メイン園路から若草山への眺望を阻害する樹木は、園路上の位置によって大きく異なり、また多数の樹木が重なりあって阻害しているところが多いことから、眺望を確保することが重要な地点で、かつ阻害樹木への対策が比較的容易な地点を優先して、眺望の確保を検討する。

具体的には、次の実施計画の段階において、詳細調査を行い、眺望確保の具体的な対策を検討する。

4)尾根の自然林ゾーンの補植

①既存のイヌガシ林への補植

既存のイヌガシ林には、イヌガシに加えてアセビも密生しており、林内に植栽しても生育が難しい。よって林縁部などある程度日照のある場所に植栽するか、イヌガシの一部を除伐して植栽することなどを検討する必要がある。樹種は、ドングリを実らせ、シカの生育環境にも寄与するイチイガシを中心とすることが考えられる。